

宝案入門

—海で世界とつながる琉球人—

琉球大学附属図書館情報サービス課保存公開係

富田千夏

はじめに

- 富田 千夏（とみた ちなつ）
- 琉球大学附属図書館情報サービス課保存公開係
- 専攻：琉球・中国の交流史
- 『歴代宝案』第9-10冊の校訂・訳注本（金城正篤担当）
の作業協力

今日のトピック

- 『歴代宝案』の基礎事項
- 『歴代宝案』は難しい？
- 『歴代宝案』に描かれた中琉交流史の世界

1. 『歴代宝案』の基礎事項

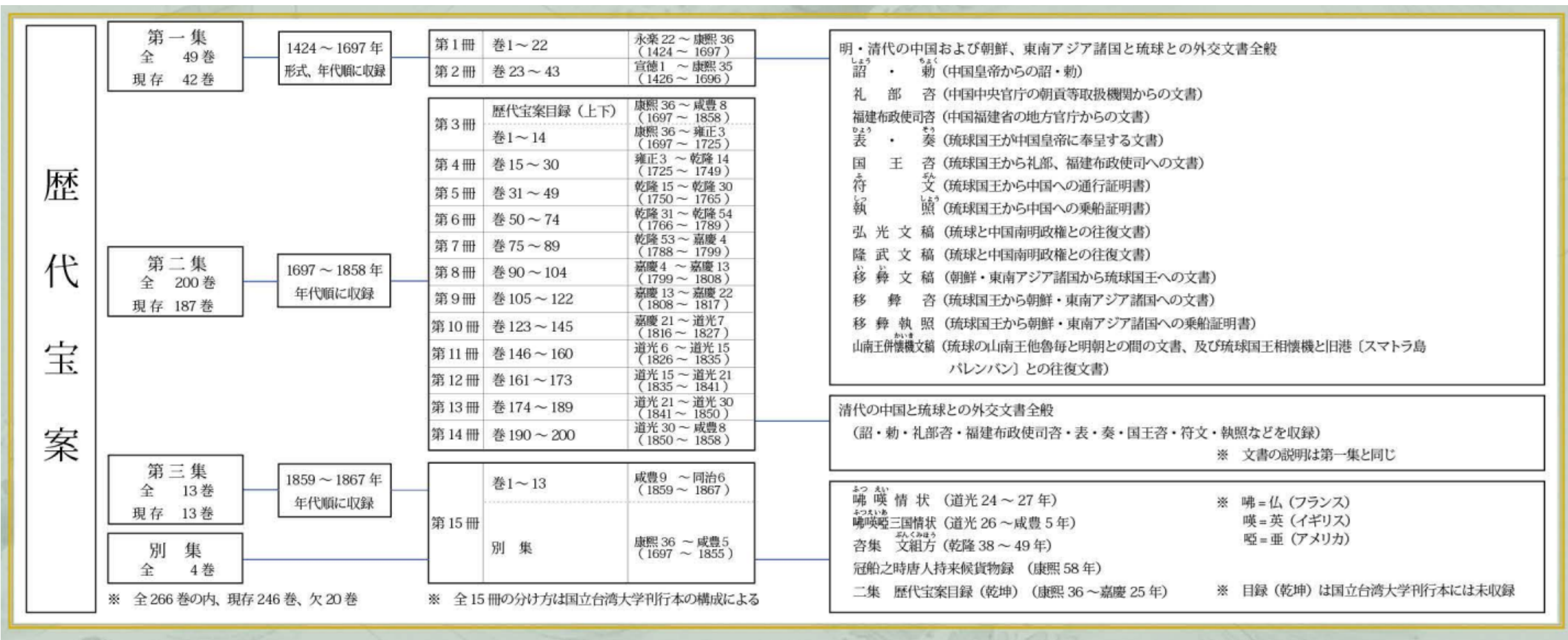


コラム 『歴代宝案』という名称の由来について（田名真之）

『歴代宝案』とは何か？

- 1424(永樂22)年から1867(同治6)年までの444年間にわたる、漢文で書かれた外交文書 本来は全266巻
- 中国や朝鮮や東南アジアの日本以外の諸外国、特に中国を中心とした文書が収録
- 外交文書の草案作成等の業務の参考資料と考えられる
- 当時の東アジアの公用語である漢文（漢語・中国語）で書かれている
- 琉球一国のみに留まらない、東アジア全域の歴史を知る資料として重要

『歴代宝案』の構成図と文書種類



『歴代宝案』は何処にあるの？

- 原本は二部作成 → 一部は首里に、もう一部は久米村に保管
- 首里城保管分 → 内務省へ移され、関東大震災で消失
- 久米村保管分 → 接收をさけるために久米村の旧家を移動し、その存在が秘密とされる
- 1931年：久米村の古老たちの協議により天尊廟内の事務所に移される
- 1933年：沖縄県立沖縄図書館へ移管、筆写本の作成
→ 沖縄戦によって原本は消失、筆写本の一部が回収される
- 現存するのは、写真による複製本や筆写本のみ

現存する諸本：写真本

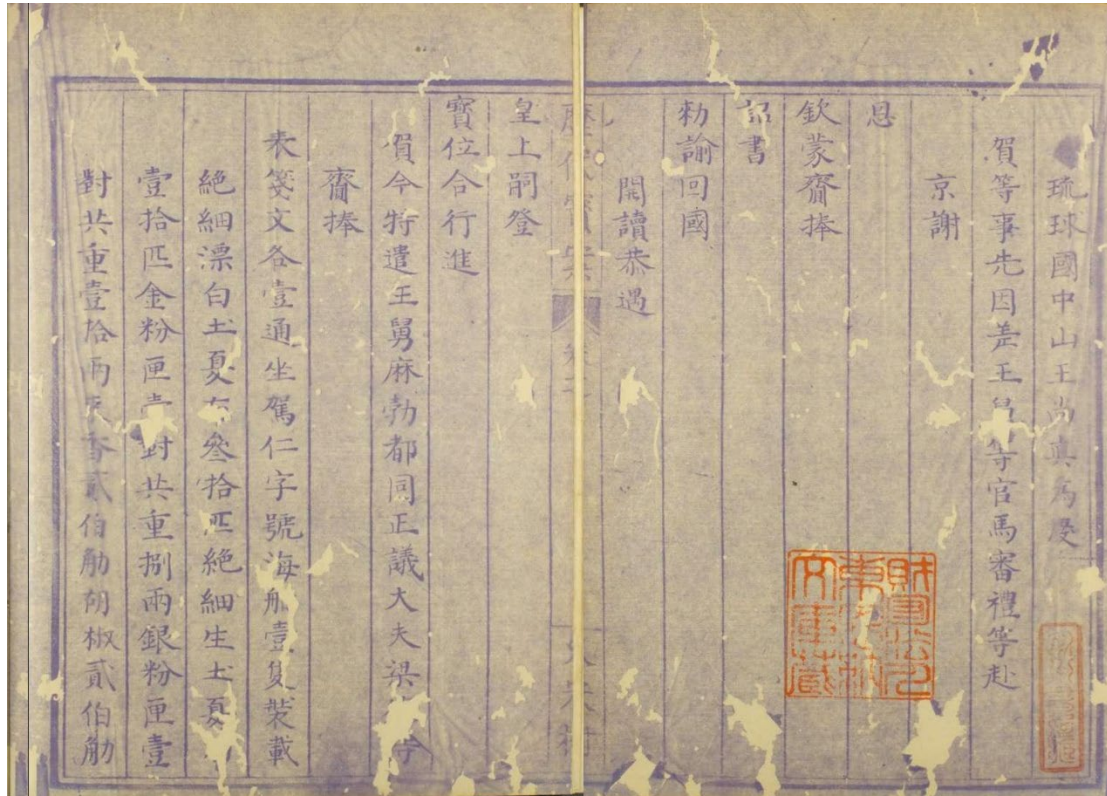
- 鎌倉芳太郎影印本
- 東恩納寛惇影印本

鎌倉芳太郎影印本

『歴代宝案の栞』 3 頁参照

- 1933(昭和8)年、鎌倉芳太郎によって撮影
- 第1集35巻、第2集17巻、第3集2巻、別集1巻の計55巻現存
- 沖縄県立芸術大学附属図書館・芸術資料館所蔵

東恩納寛惇影印本



- 琉球史研究者である東恩納寛惇が撮影を委託
- 沖縄県立沖縄図書館に移管された後に撮影？
- 沖縄県立図書館所蔵

※沖縄県立図書館貴重資料デジタル書庫より転載

現存する諸本：筆写本

- 沖縄県立沖縄図書館(旧県図本)
- 台湾大学
- 東恩納寛惇写本
- 国立国会図書館写本
- 東京大学史料編纂所写本
- 鄭良弼写本
- 等

沖縄県立沖縄図書館(旧県図本)

『歴代宝案の栞』 4 頁参照

- 筆写による複製本
- 1933-1938年頃までに作成
- 第1集31巻、第2集68巻の計99巻現存
- 戦後、疎開先の羽地村源河の山中で回収
- 2011(平成23)年に那覇市歴史博物館に移管

国立台湾大学本(国立台湾大学所蔵)

『歴代宝案の棊』 4 頁参照

- 台北帝国大学助教授(当時)の小葉田淳が筆写を依頼
- 沖縄県立沖縄図書館本の筆写本
- 誤記等あるものの、最も多くの巻が現存
- (第1集42巻、第2集187巻、第3集13巻、別集3巻、目録4巻の計249巻)

2. 『歴代宝案』は難しい？

・ ・ 正直、難しいんです

難しさの理由・・・？

- 文書の形式
- 文章が難解：古典の引用
- 複雑な文書構造

文書の形式

- 詔・勅：中国皇帝から琉球国王宛の文書
- 表・奏：琉球国王から中国国王宛の文書
- 咨：礼部（中国中央官庁の朝貢等を所掌）や福建布政使司（福建省の地方官庁）と琉球国王との間でやりとりされる文書
- 符文：進貢の為に発行される証明書
- 執照：中国に渡海する各船隻単位で発行される証明書



コラム 歴代宝案に記されたのはどんな文書？（山田浩世）

文書の形式 (一部)

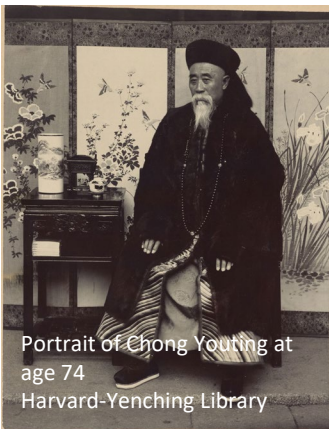


Harvard-Yenching Library



礼部

Photograph by Donald Mennie University of Bristol Library
(www.hpcbristol.net) CC BY-NC-ND 4.0



Portrait of Chong Youting at age 74
Harvard-Yenching Library



福建省海岸全圖
(国立国会図書館所蔵)

福建布政使



皇帝

Emperor Kuang Hsu, R.S. Sargeant, "The great Empress Dowager,"
Harvard-Yenching Library

詔・勅

表・奏

咨

咨



琉球国中山王

古典の引用



コラム 漢文で書かれた『歴代宝案』の意味（上里賢一）

- 宝案で使用される文章：中国の官僚世界の伝統を踏襲したもの
- 四六駢儷体：駢文とも。「駢」は二頭立ての馬を指し、「儷」は夫婦を示す。どちらも2句が一对として並列されることを意味する。4字句と6字句を中心に、各句を対句形式に構成する。技巧を凝らした美文。
- 対句：同じ字数の2句間で対応する位置にある文字が、文法機能を等しくし、且つ意義の上でも関連を有するように配置され、2句が均衡を成す
- 典故：古典の言葉や古人の故事を引用し、自分の主張を叙述すること。

参考資料：尾崎雄二郎,他編『中国文化史大事典』大修館書店, 2013

対句

聖徳は誕敷し万年の基業に綿なり、
皇猷は広被し一統の規模を大いにす

稽首頓

首謹奉
表上言伏以

聖徳誕敷綿万年之基業

皇猷廣被大一統之規模

航海梯山極來享來王之盛

開天闢地昭同文同軌之□四海傾心萬方

頌徳欽惟

皇帝陛下

功侔天地

道冠古今

綜千聖之心傳

取百王之治統

徳臣灝遠居海濱常切慕仰世在

恩綸敢忘芹獻謹遣陪臣毛惟新鄭克新等虔

齋微物聊表寸忱伏願

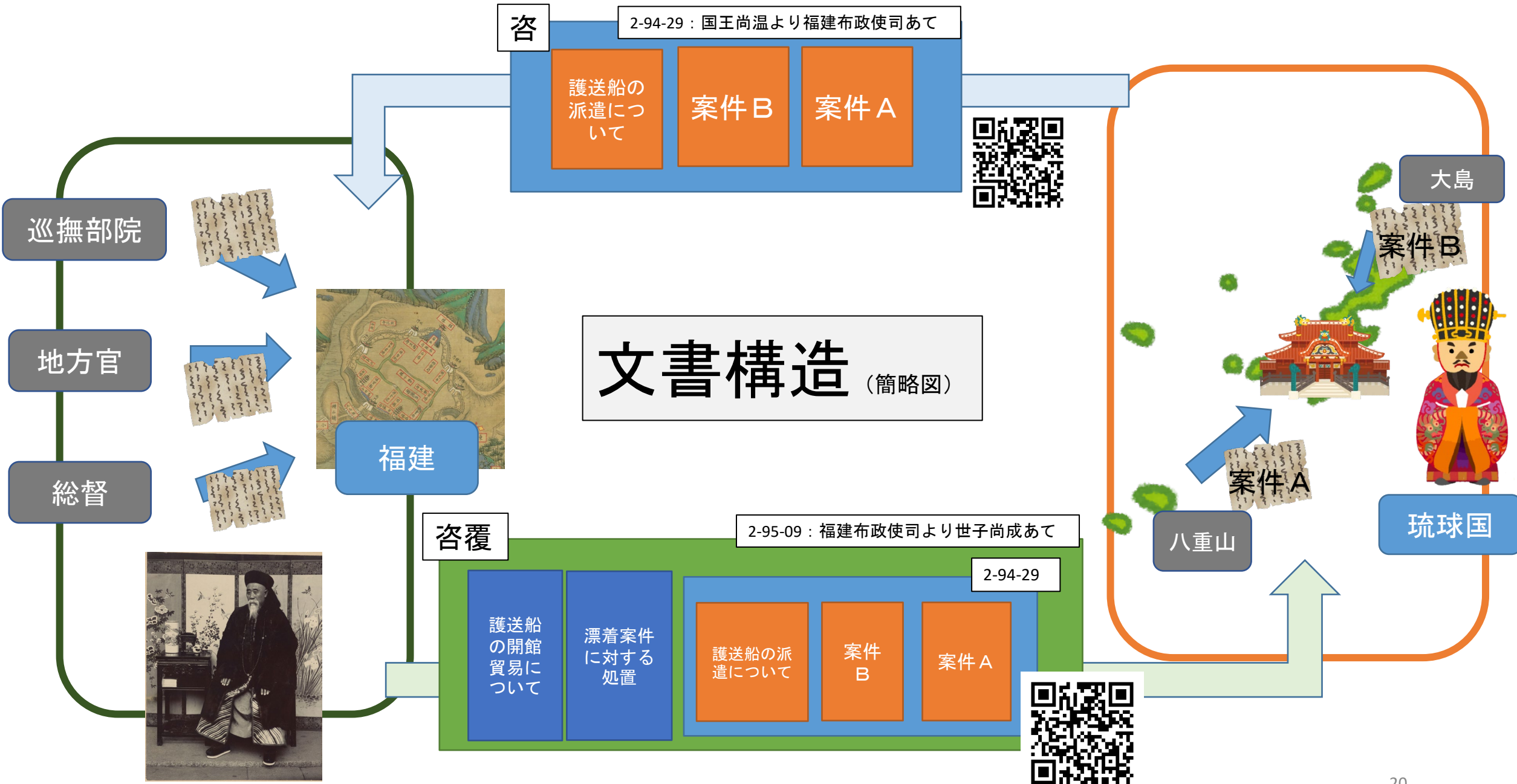
使用する文字や車輪の幅が同じであること。制度や文化が同一の体制下にあることを言う。「礼記」
「中庸」に「今天下の車は軌を同じくし、書は文を同じくし、行は倫を同じくす」とある。

典故

擡頭（たいとう）…文字の位置を高くすることで敬意を表す



訳注本



3. 『歴代宝案』に描かれた中 琉交流史の世界

海で世界とつながる琉球人

『歴代宝案』に残る琉球と諸外国の交流史の世界

- 琉球～中国間だけでなく、朝鮮や東南アジア諸国との外交や交易についての記録
- 琉球が参加した中国（明朝・清朝）での朝貢儀礼の様子
- 開館貿易
- 漂流・漂着事案への対応



外交・交易の表舞台だけではない、裏側のエピソードも収録されている

金城・唐間の漂流記



- 『歴代宝案』 第2集第2巻13号文書
- 福建布政使司より国王尚貞あて、進貢の受け入れと、員役の摘回を知らせ、あわせて浙江へ漂流した二人の水夫を附搭して帰国させるむねの咨（1703.05.16）
- 接貢船にて帰国しようとした柯椰什庫と水手の多馬は1702（康熙41）年6月12日福建を出発したものの、洋上で暴風に遭い、6月24日に浙江省寧波府象山県乱礁洋面にて漁師の彭兆栄に救助された。
- 12月21日、象山県より福州に送致される。
- 福州にて、詳しい事情を聴取



金城・唐間の口述による漂流の経緯



杭州市

宁波市

台州市

温州市

福州市

沖縄県

沖縄

那覇

24



7月18日（旧6月24日）救助される



杉板の上で漂流



7月9日（旧6月15日）沈没

本来の方向

西暦1702年7月6日（旧6月12日）
10時頃五虎門出航